

学術研究実績報告書

申請書との変更点およびその理由(内容、日程、実施場所、参加者等で変更があれば記入)

研究実績概要

研究代表者(申請者氏名・所属機関・職名):金間大介・金沢大学融合研究域・教授

共同研究者(氏名・所属機関・職名):無し

研究課題名:イノベーション活動におけるダイバーシティ・マネジメントの役割と効果

研究期間:2024年1月1日～2025年6月30日

概要:(1,000字以内で記述)

近年、イノベーション活動におけるダイバーシティ・マネジメントの重要性が改めて認識されている。異なる知識や経験を持つ人々の協働は、新たな知の創出を刺激する触媒になる。他方で、立場や思考の異なる人々が協働する場では、軋轢や対立のリスクが潜在している。そうした負の側面を超克する上でも、ダイバーシティ・マネジメントは重要な意味を持っている。そこで本研究では、複雑化する多様性とイノベーション・マネジメントの関係について明らかにすべく、主以下の2の視座から研究を遂行し、成果にまとめた。

1つ目は、ダイバーシティの効果とイノベーション活動のパフォーマンスの関係についての分析結果である。当該問題意識に対し、スタートアップの創業者メンバーの多様性とイノベーションの成果の関係を計量的に検証した。分析対象をスタートアップの創業メンバーに絞ることで、従来の先行研究が対象としてきた既存企業のR&Dや新事業開発と異なり、企業の成長過程をストレートに捉えることができ、メンバーの多様性とイノベーション活動の成果との関係がクリアに計測できる。分析の結果、次の3点の発見事実が得られた。第一に、スタートアップ創業メンバーの人数が多い方が、事業の成長に正の効果をもたらすことが明らかになった。第二に、スタートアップの創業メンバーが増える局面において、学歴多様性が高い方が創業後の資金調達ラウンドの進捗に正の効果を与えることがわかった。第三に、職歴多様性が高い方が創業後の資金調達ラウンドの進捗に正の効果を与えることがわかった。2つ目の研究成果は、イノベーション活動における年配者の役割の計量的な実証である。分析の結果、こちらは2点の発見事実が得られた。第一に、スタートアップの創業メンバーが増える局面において、創業者メンバーの年代多様性と事業売上高には逆U字関係があることがわかった。第二に、30代が創業者メンバーに含まれているかどうかは事業売上高向上の鍵であることが明らかになった。

以上の結果は、すでに査読付論文として国際ジャーナルに掲載済みである(以下)。今後は、本研究で扱うことのできなかった性別や国籍の多様性とイノベーション・パフォーマンスの関係について分析を深めていきたいと考えている。(932字)

Kanama,D., et. al., (2025) “Role of the grey entrepreneur in startups: An empirical study of the impact of age diversity on innovation performance” Journal of Economic Structures 14(8).

Kanama,D., et. al., (2024) “Investigating the effect of diversity on innovation performance: An empirical research on the relationship between career, education, and age diversity of start-up founders and business growth” Journal of Human Resource and Sustainability Studies 12(4).

* 研究実績概要は「野村マネジメント・スクール研究助成実績報告書」および財団ホームページに掲載します